

## ■関連資料 エシカル消費とは ～持続可能な社会のための新たなキーワード～

人・社会・地球環境・地域に思いやりのあるお金の使い方や生き方を意味します。

エシカル(ethical)とは、「倫理的・道徳的」という英語を意味します。私たちは毎日いろいろな商品やサービスを選択・購入し、消費して生活をしています。日々の買物の中で、価格やデザイン、味や量以外に、商品がどのように作られたかなどの背景や生産者の思い、地球環境や社会に及ぼす影響を考えて選択すること、また手に入れたものは最大限に活用することを「エシカル消費」と言います。

### ■エシカル消費の具体例

- 買物をするときに、必要なものだけ買う、長く使える商品を選ぶ
- 買いすぎず、作りすぎず、おいしく食べきる(食品ロス削減)
- 人や環境に配慮した商品やリサイクル製品を購入する
- 被災地の生産物を選ぶ(応援消費)
- 障がい者が作った商品を選ぶ(障がい者の自立支援)
- 地域で生産された商品を選ぶ(地産地消)
- 寄附付き商品を選ぶ(買物で社会貢献)

### 〈エシカル消費の手がかりとなる認証ラベル例〉

|  |   |  |
|--|---|--|
|  <p><b>エコマーク</b></p> <p>環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品につけられる</p>             |  <p><b>FSC®認証マーク</b></p> <p>適切に管理された森林からの木材や、適格だと認められたリサイクル資源から作られた商品に付けられるマーク</p> |  <p><b>国際フェアトレード認証ラベル</b></p> <p>開発途上国の生産者・労働者の生活改善と自立支援に向け、公正な取引の基準を満たす商品につけられる</p> |
|  <p><b>MSC</b><br/>「海のエコラベル」</p> <p>水産資源や環境に配慮した持続可能な漁業で獲られた水産物につけられる</p> |  <p><b>GOTS 認証マーク</b></p> <p>原料から最終製品まで環境に配慮し、社会的に責任のある製造方法で作られた商品につけられる</p>       |  <p><b>グリーンマーク</b></p> <p>古紙を原料に規定の割合以上、利用した製品につけられる</p>                             |

エシカル消費のポイントは、身近にできるところから、少しでも取り組むことです。

## ■今、なぜ？エシカル消費が求められる背景

現在の大量生産・大量消費・大量廃棄の経済活動は、私たちに便利で快適な暮らしを提供しましたが、その一方で、「貧困・環境・人権」に関する問題は、世界の緊急課題となっています。

### 〈児童労働〉チョコレート、コーヒー、紅茶、綿製品などの原料の生産にみられます。



〈カカオの実を拾う〉



〈カカオの実をナタで割り果肉を取り出す〉

写真提供／特定非営利活動法人 ACE

国際労働機関(ILO)によると、全世界の児童労働者数は、約1億6,000万人と推計されています。これは世界の子供人口(5歳～17歳)のおよそ10人に1人にあたります。収入が少なく、生活が苦しいため、子供たちは学校へ行かずに働かなければなりません。

※特定非営利活動法人 ACE

インドとガーナを中心に、世界中のすべての子供の権利が守られ、希望を持って安心して暮らせる社会の実現に向けて20年来活動を続けている団体

### 〈気候変動〉気候変動の影響を最小限に抑える取り組みが求められています。



ヒマラヤの氷河(1978.5.30)



ヒマラヤの氷河(2008.10.7)

ヒマラヤでの氷河の後退

写真提供/ 名古屋大学環境学研究科・雪氷圏変動研究室

#### 地球温暖化の進行

- 1850-2020 年、気温 1.09℃上昇
- 1901-2018 年、海面水位 20cm 上昇
- 毎年 1 千～1 万種の種が絶滅

21世紀中に、世界の平均気温は、最大5.7℃上昇、世界の平均海面水位は、最大101cm上昇、北極圏の海水は消失すると予測されています。豪雨による大規模洪水や熱波による森林火災などの発生頻度が増大しており、世界中で取り組みが急展開しています。

## ■国際的な取組

平成27年9月、「国連持続可能な開発サミット」において、「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、国際社会全体が、経済・社会・環境の3つの側面から、世界の課題を解決していくことを決意し「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals、以下「SDGs」)が定められました。

(国際連合広報センターWeb サイトより)



## 徳島県の実践紹介

| 学校や事業者等が取組を宣言  | 「知っている」から「行動する」へ   |
|--|--|
|  <p>徳島文理大学・短期大学部では、学生が考案したランチ BOX を販売。代金の一部が NPO 法人 TABLE FOR TWO 寄付を通じ寄付されました。</p> |  <p>商品を手にする、ものづくりを体験してみるなど、気軽にエシカル消費に取り組める環境づくりを推進しています。</p> |

## 高校生によるエシカル消費の推進

令和元年度、県内全ての公立高等学校に「エシカル消費」を研究・実践する「エシカルクラブ」を設置、さらに令和3年度からは、各校の「エシカルクラブ」から意欲ある生徒が集まり「とくしま・エシカル高校生委員会」を結成し、エシカル消費の普及・啓発に取り組んでいます。

| 各校の特色を生かした研究・実践   | 高校生委員会が支える「エシカル甲子園」  |
|---|--|
|  <p>持続可能な社会を目指して、エシカル消費を推進。地域や企業等との連携やデジタルの活用など高校生の発想を生かして実践に取り組んでいます。</p> |  <p>第5回記念大会「エシカル甲子園 2023」(R5.12.26)。高校生委員会の皆さんがサブテーマを決定するなど運営全般に参加しています。</p> |